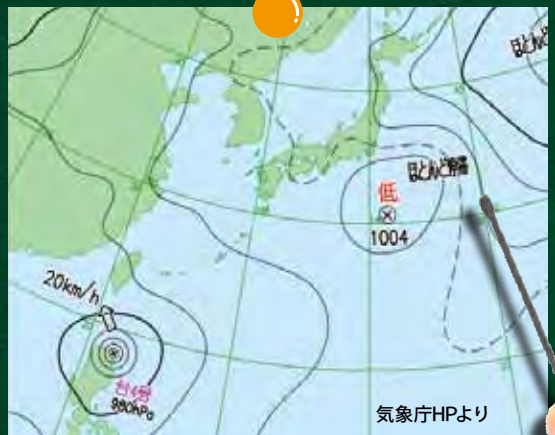


# 気象キャスターが解説! 天気のカタ

## 連載 第1回 台風

気象キャスターネットワーク



### ❊ 連載のはじめに

皆様、初めまして。特定非営利活動法人気象キャスターネットワーク (WCN) 代表の藤森涼子と申します。これから1年間、WCNの気象キャスターが、気象や季節などについての話題を連載させていただくことになりました。第1回はWCNのご紹介も含めて私が担当させていただきます。

WCNは、2004年に気象キャスター数人が集まって設立しました。現在は会員数も280名を超え、専門知識と伝える力、全国のネットワークを活かして気象災害の軽減を目指して活動しています。活動の中心は会の設立当初から取り組んでいる気象、防災、環境をテーマとした小学校の出前授業です。これまでの11年間で延べ4200校以上での実績があり、私も130校以上の学校に伺いました。それぞれの学校で出会った子供たちとの時間は私の大切な宝物、そして一緒に活動してきた気象キャスターは大切な仲間です。

ふじもり りょうこ  
藤森 涼子

特定非営利活動法人気象キャスターネットワーク 理事長  
気象予報士

日本テレビキャスター

平成27年度 国土交通省交通政策審議会 臨時委員  
熊本県生まれ。父親の転勤により全国各地に住む。大学在学中にTBSテレビの気象番組や情報番組の気象キャスターを担当。その後日本テレビに移り、現在は24時間ニュース専門チャンネル「日テレニュース24・デイリープラネット」火～木曜日の気象キャスターを務める。好きな言葉は「明日は明日の風が吹く」。趣味は「社交ダンス」、「宮古島でのシュノーケリング」、「花の写真撮影」。



Profile

### 🌊 減災プロジェクト2016

ここ数年も地球温暖化が原因と思われる異常気象が増えています。一昨年は広島での大規模な土砂災害、去年は鬼怒川が決壊した関東・東北豪雨など「今までに経験したことの無い」大雨が降り大規模な災害も発生しています。国土交通省や気象庁では、最近の雨の降り方を「局地化」「集中化」「激甚化」している、地球温暖化の影響で「新たなステージに入った」と表現し、その対策に取り組んでいます。そこでWCNでも、今年「減災プロジェクト2016」を立ち上げ、更に精力的に出前授業や講演、イベントなどに取り組んでいきたいと思えます。

これまで私たちは企業の支援や自治体などの委託を受けて出前授業を行ってききましたが、今回のプロジェクトでは小学校からも企業さんからも一切費用は頂きません。会の予算の中から費用を捻出し、キャスターを小学校に派遣します。全国で30校、テーマは①気象と防災、②地球温暖化のどちらかをお選びください(小学校4～6年生向け)。地域は問いませんが、学校内での出前授業が基本となります。これを機会に是非企業や自治体が独自で実施している出前授業にこのプロジェクトを利用頂き、私達の活動を知っていただけないかと思っています。またイベント、講演などにも積極的に気象キャスターを派遣して防災、減災の必要性を伝えていきたいと思えます。

専門的な気象・環境の知識とコミュニケーション能力を兼ね備えた気象キャスターは、「環境・防災のメッセンジャー」です。テレビやラジオで活躍中の気象キャスターが皆様の町に伺いますので是非お申し込み、ご依頼を頂ければ幸いです。よろしくお願い致します。



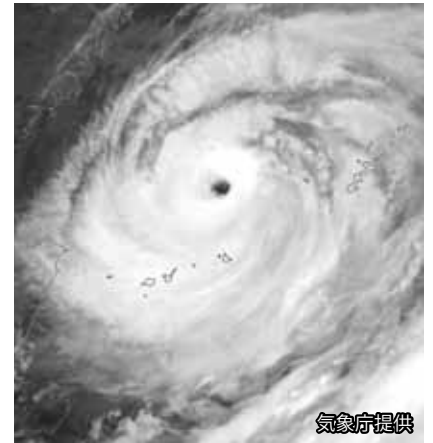
小学生を前に出前授業

## 来ても災害、来なくても災害

連載第1回のテーマは「台風」です。今年は台風の発生が記録的に遅く、1号が発生したのは7月3日。1951年の統計開始以来2番目に遅い発生となりました。過去、台風の発生が遅い年を振り返ってみると、1998年（7月9日に発生）は台風の発生そのものは16個と少なかったのですが、そのうち4個が上陸し、大雨などの被害をもたらしています。「発生が遅い→数が少ない→被害が少ない」という図式は残念ながら成り立ちません。また、今年に関東で記録的な渇水となり、矢木沢ダムの貯水率は一時10%近くまで下がりました。私達、気象キャスターは渇水のダムを見学させて頂きましたが、通常より30mも水位が下がり岩肌の露出したダムの様子は、満水の際にも訪れたことがあるだけに衝撃的でした。過去にこのレベルの渇水を解消させたのは、台風がほとんどです。つまり、台風は「来ても災害、来なくても災害」を引き起こす厄介な低気圧なのです。

## 変わる「台風予報」

台風が発生した際には気象庁から「台風予報」が発表になりますが、この台風予報が今年から変わりました。変更前と変更後を比べてみると、予報円（台風の中心が入る確率が70%）が小さくなっているのがわかります。予報円の大きさは数年間の予報成績を踏まえて随時見直しを行っています。今年は平成23年から27年までの過去5年間の予報成績を反映して改善されましたが、近年の数値予報モデルの改良や気象衛星ひまわり8号の新たな観測データの活用により、これまでと比べて20%から40%も小さくすることが可能になり、暴風警戒域もより絞り込んだ予報が可能になりました。台風が海上にあるときは実際の気圧を測る事ができません。気象衛星の画像で「眼」の形状や雲の色、温度などから中心気圧を推定しています。水平解像度が2倍になり10分ごとに届くようになったひまわり8号の画像は台風の実況監視にも予測にも大活躍しています。



気象庁提供

9月から10月は大型台風が襲来しやすい季節です。台風の真ん中にまん丸の目がぱっちり開いた時が台風のピーク。常に最新の台風予報を活用し被害に遭わないように十分な備えをお願いしたいと思います。

## 新しくなった台風の予報円

